「Thinkサイクリング山口」事業内容再々変更／「YYCFC」＆「THT26普及委員会」

2022秋～2023春ロードマップ案・補足解説

昭和、平成、令和、諸先輩や仲間の金言や呟きが“転遊研”の潤滑油？

「とれとれバイク」や「ルートNブルベ」などの中上級者向けソフトは一部マニアから支持されているものの、PBP2003への日本チーム初参加時に、自転車市民権獲得がなければ次のステージに進めないと痛感。長崎の親友の助言から生まれた“転遊研”で、日常利用とスポーツ利用の架け橋となる「THT26◇自転車さんぽ」を探り当て、広島自転車トークの面々との出会いからのその集大成的（見える化）な「テトラバランス」を提唱する。しかし、目前の成果にとらわれるイベント関係者からはやんわりと否定される。

とは言え、イベントや企画の主催において、目的が微妙に異なっている輪界関係者と行政関係者も、『日本の実情』に翻弄されているのは事実。

それは「マップは用意したので後は自由に走ってね！」と言う、昭和の駅前サイクリングマップ看板の呪縛にほかならず、本来なら地元クラブと観光行政が融合したガイドツーリングが、最も望まれるが、責任の所在が曖昧な『日本の実情』の壁に阻まれ、結局、自発的、個人的な、プライベートサイクリングに委ねるしかなく、自転車ソフトの自主規制状態に陥っているのが現状。

それを少しでも打破したいと、複数の自転車市民権獲得登頂ルートを【転遊研／三種道「日本の実情」俯瞰図】のように考えており、構想30年のスクールズ（THT26にスクール要素を盛り込みネットワーク化を！）、構想25年のリバティフィールド（クローズド＆オープンで自転車の多様性を訴える！）、構想20年のサイクリストライセンス（地域貢献型サイクリングクラブの先達探しを！）として示している。

確かに「THT26◇自転車さんぽ」は日本の実情に合った自転車遊びとして模索した独自ソフトで、警察も追認するルールのため行政が主催した大会もあるが、「とれとれバイク」も「ルートNブルベ」も、フランスでは普通に行われているものを、日本流にアレンジしたが、流石にそれは無い。つまり行政主催や自治体後援の企画が具体化すれば自転車市民権獲得の証となるはず。

因みに行政主催のイベントサイクリングは、一般道の目的外使用ながら、首長たってのお願いとして実施しているもの。また、参加対象を自転車初心者にも拡げているため、運営が小学一年生の初登校日に等しい旗振り誘導となっていて、いわゆる「大人のサイクリスト」が育たない環境を作っている。

主催者の大小を選ばない等身大企画とセルフ出走企画と地元協働企画

その中、自転車多様性の訴求と市民権獲得を目指すホワイトサイクリング深掘り企画（Thinkサイクリング山口立ち上げ）と、地域の福地化を目指す廃校ベース企画（玉石混淆ソフトの実績作り）を、どちらもトレジャーハント26を応用した形で、きらめき財団へ助成金の申請を行った。

何とか同時採択されたが、“拡大ロードマップ”のベースが定まっていない部分もあった。その影響も多少はあったかも知れないが、市の施設を使用する廃校ベース企画は、コロナ禍で中断中止に、それとの連携が前提の深掘り企画は、事業内容の再々変更を迫られる形に。

確かに、コロナ禍で参加者が触れ合う機会の創出が制限されており、集客を目的とした企画は難しい面もある。しかし、折角の採択であり、ある程度の企画調整も行っているので、少人数、別々ターゲット、分散実施での開催を「2022秋～2023春ロードマップ案」として、改めて提案したい。

その第一企画が「紅葉のラリーデイ2022in山口」で、その第二が「山口ブルベ企画」、その第三が「月例走行会企画」となり、それぞれ「町の道」「街道」「山道」に相当する。但し、「Thinkサイクリング山口」事業内容再々変更は、「学習トレジャー模擬実施」と「スクールズ2023プレ企画」に注力する必要があり、それが第四の企画となり、どうやってまだ見ぬ協力者に情報提供をするか、ホワイトサイクリング以外のソフトをどうやって網羅するかに議論の余地はある。

企画概略と懸案

第一企画／紅葉のラリーデイ2022in山口【Thinkサイクリング山口主催】
過去に実施したマップ＆問題の再利用が可能で、Thinkサイクリング山口関係者の在住地や今回の連携予定先で、プレライド亀山と学習トレジャー模擬実施を含む、3～5会場を検討。基本はソロ参加、一般成人、会場によっては関係者限定で、募集は15名前後。
⇒企画運営はいわくに研究会が担当し、スクールズを視野に入れた協力者も募集。
⇒会場候補（優先順）：阿東、山口、長門、岩国、柳井、宇部、美祢、長府、萩、下松

第二企画／山口ブルベ企画【Thinkサイクリング山口の守備範囲として検討】
自発的なソロツーリングと、組織で遊ぶツーリングコンペティションの境目をホワイトサイクリングとして考えるために「サイクルステーション連携コマ地図ラリー」や「新岩国～屋代島～徳山セルフ出走企画」を提案。
⇒運営母体として「山口ブルベ」を新たに立ち上げるか、分科会として対応するか？
⇒六日市TN試走会は、いわくに研究会またはYYCFCとして実施を検討。

第三企画／月例走行会企画【外部企画として連携】
09年レイドオブシディアンの調査で見つけた「山代街道」。そして16年から「やましろMTBツアーズ」を定期的に実施しながら、「やましろ羅漢スターリッジトレイル」や「羅漢高原トレイルパーク」の道普請を行う。22年春企画で府谷周辺に見つけた杣道に新たな可能性を見出す。
⇒やましろ羅漢冠高原道普請案で、延べ80kmの杣道を調査したがその維持管理は超難題！
⇒コンパクトな周回コースで、地元と協働の企画を！山道走行が最もグレーなサイクリング。
⇒運営団体を模索しながら、月例走行会の安定参加者が見えてきたら次の企画も検討！

第四企画／スクールズ2023プレ企画に向けて【活動のベース企画】
臨時集会報告書では、議題の大半を「スクールズ企画書内で調整」としているが、学習トレジャー模擬実施との連携を前提としたい。そのため「紅葉のラリーデイ2022in山口」の企画調整を優先し、ある程度まとまったところで、「スクールズ2023プレ企画」を考えたい。
⇒学習トレジャー模擬実施でもスクールズに触れ、協力者を募集。
⇒チラシの表面は模擬実施と連携企画を、裏面はトレジャーハント26の解説とスクールズの予告＆協力者募集を、それぞれ掲載。
⇒スクールズの詳細はWebで解説予定！それに合わせて企画書を作成。
⇒その上で、協賛依頼、後援依頼、協力依頼を各方面に行う。
⇒ロゴについて：レターヘッド用の四角いものと、バナー用の横長の二種類が欲しい。
⇒イベントカレンダーについて：〔春需で情報発信〕〔秋需で人材交流〕の2回、チラシ等を作成するが、それだけでは県内のサイクルイベントを網羅出来ないため、Web上にイベントカレンダーを設置したい。その上で、情報提供を各ショップにお願いしたい。

以上のように、6月末の事業変更届の後で、8月3日に開いた臨時集会の報告書をまとめたものの、再々変更となっており、まずは、Thinkサイクリング山口主催の紅葉のラリーデイ2022in山口の企画調整に取り掛かりたいと思います。

2022/09/25
Thinkサイクリング山口事務局・企画担当／石丸英明

※「THT26普及委員会（仮称）」関係者へ・・・・・22秋～23春のロードマップでは、紅葉のラリーデイは山口県限定で行いますが、萌黄のラリーデイは、以前のように出来るだけ広範囲で共同告知・全体集計を目指したいと思います。そのため今回は間に合わなかった、JKAへのアプローチや、自転車関連団体へのアプローチ、そしてスマホ活用の自動集計システム開発も改めて検討したいと思います。

※「YYCFC」関係者へ・・・・・22秋～23春のロードマップでは、「リバティフィールド府谷（仮称）」に注力していますが、岩国市の地域活性化イベント支援補助金へのアプローチも検討中で、紅葉RDの岩国会場や、六日市TN試走会なども守備範囲としたいと思います。